

粗飼料の多給及び飼料中の適正なタンパク質水準による和牛子牛育成方法の確立

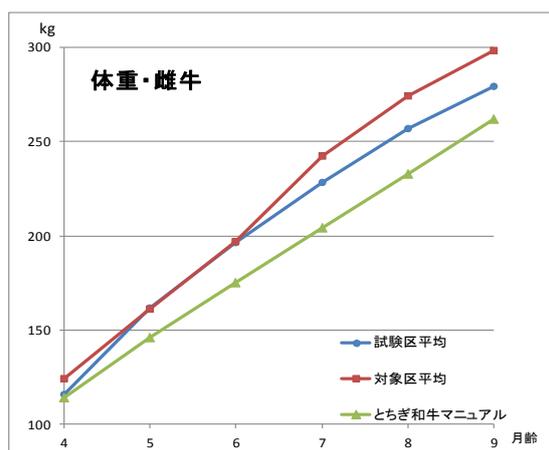
要約

- ・粗飼料多給及び高タンパク飼料給与により、日本飼養標準の発育基準+1.5 σ と同程度の発育を確保できる。
- ・粗タンパク質水準(乾物%)は、14%と15%の両区とも良好な発育を示したが、販売価格と飼料費の比較では差は無いので14%で十分と思われる。

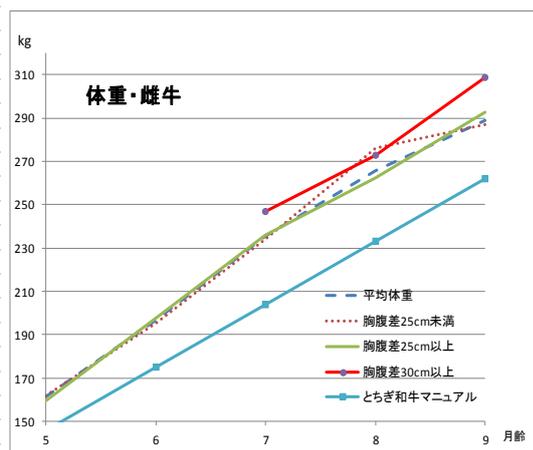
○ 展示のねらい

当管内の雌子牛は、とちぎ和牛子牛 哺育・育成マニュアルの目標発育値と比べて体高、胸囲が低い傾向にあることから、雌子牛の適正且つ効率的な育成方法が課題となっている。そこで、粗飼料多給した子牛育成技術に加え、飼料中の粗タンパク質水準を上げた(試験区 15%、対象区 14%) 飼料給与による優良子牛の育成方法について検討し、「売れる子牛づくり」に資する。

○ 主な成果



試験区・対象区を比較した体重結果については、粗飼料多給を実施したことにより両区とも「とちぎ和牛マニュアル」を大きく上回り良好であった。しかし、6ヶ月以降で対象区が試験区を上回る増体を示したため、粗タンパク水準は14%でも十分であると考えられる。



粗飼料を多給することにより、第1胃の発達が促進され、腹囲-胸囲=胸腹差の値で、30cmを上回った子牛が大きな増体を示した。また、1日当たり増体量(DG)は、胸腹差20cm以下と30cm以上の子牛で比較すると、0.3kg/日以上以上の差があり、粗飼料多給により第1胃の発達が順調に進んだ子牛は増体が良好になる結果が得られた。

○ 今後の方向性

高タンパク飼料は子牛の成長に有効であるが、14%を目安に下痢の発生に注意しながら増給する必要がある。粗飼料多給は子牛育成時の重要なポイントとなるが、離乳時期と個体差によって差がでるが、第1胃発達のために良質粗飼料を確保し積極的な給与が必要となる。

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：宇都宮市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315